

目標達成計画

作成日: 2020年 1月 21日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	36	①フロア(共同スペース)内での個人情報の取り扱い方について、個人の記録ファイルの氏名が見える形で置いてあった。 ②重要事項説明書の中での個人情報の取り扱い同意書が、介護サービス提供に必要な利用目的とパンフレット・チラシ・TV撮影などのサービス情報の案内に必要な利用目的をまとめて、個人情報の取り扱いとして同意書の記入を行っていただいていた。今後、項目ごとの同意の確認をおこない、記入していただく事が望ましい。	①共同スペース内での個人を特定できる記録媒体の取り扱いを徹底する。 ②個人情報の取り扱いについて、重要事項説明書にて、項目ごとの取り扱いの説明、同意の確認を行っていく。	①記録ファイルの名前をイニシャルで表記する。また、ファイルを布などで覆い記録媒体が他者に見えないように配慮する ②重要事項説明書の様式を変更し、項目ごとに説明を行い、同意を得られるようにする。	24ヶ月
2	26	入居年数が長い利用者の介護計画書の発行について、本人・家族が望む要望の欄の記入について、要望とする内容に変化が見られない。今後、本人・家族との会話や面談、普段の生活の中で、要望につながる幅広い情報収集をおこない、またADLや精神の安定を含めた利用者の様子を家族へ伝え、計画書へ反映すること。	普段の生活の中で、利用者本人・家族の言葉や表情を見逃さず、不安や心配に感じておられることなどをくみとり、より具体的に計画書に記入する。	認知症の進行や年齢によるADLの低下、周辺症状についても家族と今以上に十分な話し合いを設け計画書を作成する。また、普段の生活の中で、気づいた点など職員間で情報を共有し計画書に活かして行く。	24ヶ月
3	23	入居前の生活暦など、入居時に収集した情報に加え、新たな情報があった際に毎日の記録や申し送りなどで共有してたがその情報を活かしてきれていない。より詳しくその情報を個別に集約することで、認知症の周辺症状による不穏・徘徊などの行動について、原因を探る鍵となること。また、日常生活の中で、多くの話題を持って会話を増やすことができ、その方をより理解する事が出来るようになる。	ご家族や知人の面会、地域包括支援センター、地域住民の方、かかりつけ医療機関などから、利用者の新たな情報を得た場合にはその情報を活用できるようにする。	個人の記録ファイルに生活暦に関してのみを記入する記録用紙を準備する。新たな情報を得た職員は記入を行い、毎月のユニットカンファレンス、全体カンファレンス等で情報として伝え、全職員で共有する。	24ヶ月